

Katharine Hepburn キャサリンヘプバーン

Katharine Hepburn May 12, 1907
 Time: 5:47PM Zone: 5:00 DST: 0
 Hartford, CT
 Longitude: 72W41 Latitude: 41N46 CurPer: Ve/Su/Ve
 Lahiri Ayanamsa: 22:34 365.25 Day Year

Sa 2:15 Ve 25:51	Me 15:34 Su 28:30	Mo 4:58	Ju 16:28
			Ra 2:50
Ke 2:50			
Ma 23:13		As 15:23	

As 15:23	Li	Vimshottari Dashes
Su 28:30	Ar	Su May-12-1907
Mo 04:58	Ta	Mo Aug-17-1909
Ma 23:13	Sg	Ma Aug-18-1919
Me 15:34	Ar	Ra Aug-17-1926
Ju 16:28	Ge	Ju Aug-17-1944
Ve 25:51	Pi	Sa Aug-17-1960
Sa 02:15	Pi	Me Aug-18-1979
Ra 02:50	Ch	Ke Aug-17-1996
Ke 02:50	Cp	Ve Aug-18-2003

As Mo Ju Ve			Sa Ra
Ke			Me
Su		Ma	

(キャサリンヘプバーンの出生データはアストロデータバンクより Rating:AA)

別紙でハワードヒューズのラグナについて牡羊座ではないかという予想を立てているが、キャサリンヘプバーンのチャートを確認するとハワードヒューズのラグナが牡羊座である可能性の証拠として有力である。

映画『アビエイター』の中で、ハワードヒューズがキャサリンヘプバーンと浜辺で出会い、ゴルフに誘って、交際がスタートし自家用セスナ機の運転をさせて貰ったり、家族にハワードヒューズを紹介したりする場面が出てくる。

ストーリー

20 世紀初頭。一人の少年が母親に体を洗われているところから物語は始まる。この少年がハワード・ヒューズである。そのとき母親からひとつの言葉を教わる。「QUARANTINE」...和訳すると「感染予防のための隔離」という意味である。後にこの単語に彼は苦しめられることとなるのだった。

それから時は流れて 1920 年代。彼は映画『地獄の天使』を製作していた。思うように撮影ができなかったりとトラブル続きだったが、3 年近い撮影期間を経てようやく完成させた。彼のもう一つの夢があり、ヒューズ・エアクラフトという会社を立ち上げ、世界一早い飛行機 H-4 を開発していたが、それも軌道に乗ら始めた。同時期に知り合った女優キャサリン・ヘプバーンと恋に落ちたが失恋してしまい、その腹いせにすべての衣服を燃やしてしまうのだった。

その後 H1 レーサー機を開発しテスト飛行するが墜落し瀕死の重傷を負う。復帰後の彼を待ち受けていたのは FBI の強制捜査だった。彼はオーウェン・ブリュスター議員の公聴会を受けてたつこととなる。

だがその後、彼は試写室に全裸で引きこもり、牛乳瓶に尿をため並べて暮らしていた。ホアン・トリップがトランス・ワールド航空を売るように迫るが彼は跳ね除けた。その後彼は映画を見て錯乱して倒れ苦しんでいた…。果たして彼はブリュスターとの直接対決に挑むことができるのか、そして H-4 は完成するのか?

『アビエイター』/ウィキペディアより引用抜粋

しかし、ヒューズの女性関係が派手な為、関係が破局するのであるが、彼女の7室に在住する太陽は、おそらく、ハワードヒューズを表しているのである。

太陽は11室の支配星で7室で高揚し、9、12室支配の水星と接合している。

そして、7室支配の火星は3室射手座に在住し、3、6室支配の木星と4、5室支配の土星からアスペクトされている。

11室は同じサークル、同じ階級に属するメンバーや仲間を表し、11室の支配星が7室で高揚していることはキャサリンヘプバーンの場合、同じハリウッドの映画業界人の中のステータスの高い人々との社交を表し、そしてそのような社交関係の中から地位の高い交際相手が見つかることを表している。

7室には9、12室支配の水星も在住しており、知的で権力があり、ビジネスマンである人物が彼女のパートナーであり、そのパートナーから幸福や富が期待できることを表している。

ハワードヒューズは資本家で当時のハリウッドで映画会社を買収し、資本家として、そして映画監督として振舞っており、まさにハリウッドの大物で7室で高揚する太陽に該当している。

ハワードヒューズのチャート(別紙参照)で蠍座の月から7室の牡牛座には5室支配の木星が在住して、ラージャヨーガを形成しており、キャサリンヘプバーンの月が牡牛座で高揚しているところを見ると、ハワードヒューズにとっては彼の木星がキャサリンヘプバーンを表しており、自分を保護し、啓蒙してくれる相手ということになる。

然し、二人が別れたのはハワードヒューズの女性関係が派手だったためであり、映画では口論が絶えない様子が描かれていた。それはキャサリンヘプバーンのラグナロードの金星が結婚関係を損失する6室に在住し、6室の支配星も7室支配の火星にアスペクトしている。

牡羊座をハワードヒューズのラグナとしてみた場合、7室の支配星が12室に在住して、パートナーの損失の象意を表していることと関係していると思われる。キャサリンヘプバーンのチャートは権力の高い人との交際によって富や幸福に恵まれるが、パートナーとの関係性が失われて離婚となる傾向も表している。

このようにキャサリンヘプバーンのチャートから、ハワードヒューズのラグナが牡羊座である可能性をしぼることが出来るのである。

7室に太陽が在住すると社会的地位が高い人との交際を求めるのであるが、太陽は11室を支配して、まさに同じ映画業界人の中でパートナーと知り合い、そして交際しているところから、7室の太陽はハワードヒューズを表していると思われるのである。

そして、太陽のナクシャトラはクリティッカーであるが、クリティッカーは生まれつきの王族、セレブであり、苦勞人ではないのである。坊ちゃん的なところが幾分あり、それは遺産相続して苦勞せずに資本家となったハワードヒューズの経歴や性格にも一致している。

